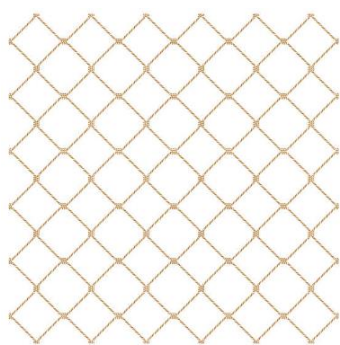


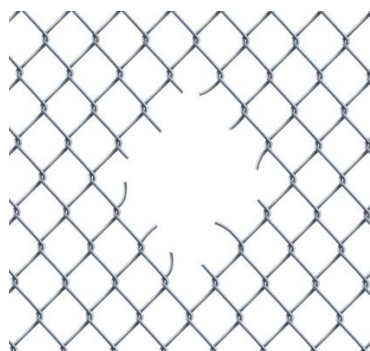
表に現れにくい「社会課題」に対する地域住民の参画



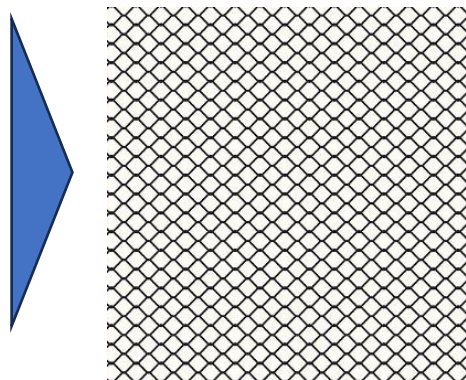
① 目の粗い網



② 破れた網



③ 目の細かい丈夫な網



【提案者の想い】

・地域包括システム

高齢者のみならず難病患者、重症心身障害児者、精神障害者など、地域生活を営む上で支援を必要とする全ての人を対象とするべきである。

・近所付き合いの希薄化

厚生労働省の調査によると、近所付き合いの程度は、1975年よく付き合っている約70%から2004年には15%まで低下し、近年はさらに希薄化となっている。町内ですれ違えば挨拶や井戸端会議をする「顔の見える」地域社会はなくなっている。

・地域社会に関する意識の変化

内閣府「社会意識に関する世論調査」によると「何か社会のために役立ちたい」と思っている人は、1977年45.2%から2006年には61.6%となっており、社会貢献への意識は高まっている。

⇒専門職だけでは拾える数に限りがある。そこで、地域住民が連携し、すくう網の目を細かいものにする^①ことで、地域包括システムにつなげていく必要があるのではないかと考える。

・現行のシステムには抵抗のある人もいるため、**公的機関に加えて誰もが気軽に立ち寄れて、共に楽しめる場所を作る**ことによって地域住民が顔の見える関係を広げていける社会を作りたい。

タイトル：表に現れにくい「社会課題」に対する地域住民の参画

なぜその提案(できること・取り組みたいこと)を思いついたか：

・地域包括システム

高齢者のみならず難病患者、重症心身障害児者、精神障害者など、地域生活を営む上で支援を必要とする全ての人を対象とするべきである。

・近所付き合いの希薄化

厚生労働省の調査によると、近所付き合いの程度は、1975年よく付き合っている約7070%から2004年には1515%まで低下し、近年はさらに希薄化となっている。町内ですれ違えば挨拶や井戸端会議をする「顔の見える」地域社会はなくなっている。

・地域社会に関する意識の変化

内閣府「社会意識に関する世論調査」によると「何か社会のために役立ちたい」と思っている人は、1977年4522%から2006年には6166%となっており、社会貢献への意識は高まっている。

専門職だけでは拾える数に限りがある。そこで、地域住民が連携し、すくう網の目を細かいものにすることで、地域包括システムにつなげていく必要があるのではないか。

その提案を実践することで地域がどのようになればよいと思うか：

現行のシステムには抵抗のある人もいるため、公的機関に加えて誰もが気軽に立ち寄れて、共に楽しめる場所を作ることによって地域住民が顔の見える関係を広げていける社会を作りたい。